

YANBARU BIYORI / Core Design for Wellness Community

■ 計画の目的

本構想は医療過疎地を有する沖縄県北部地区を対象として、新しい医療体系となる「統合医療」を提案することを目的とし、東海岸の天仁屋地区に「統合医療」の中核施設の計画を行う。

■ 沖縄県北部地区の概要

沖縄県北部地区は、本島9市町村、離島3村からなり、沖縄県の総面積の約36%を占めている。人口増加率は少なく、人口比も9.4%を占めるにすぎないアンバランスな人口分布である。少子化の進展は否めないが、100歳以上の人口が沖縄県内でも特に高い地区であり、長寿・健康の地区であることが伺える。しかしながら、病院や診療所の充足率は全国的にも低い地区でもある。

■ 構想提案

沖縄県、名護市および北部広域市町村圏事務組合が策定した保健・医療・福祉に関する計画案を参考に、本構想の基本提案を以下のようにする。

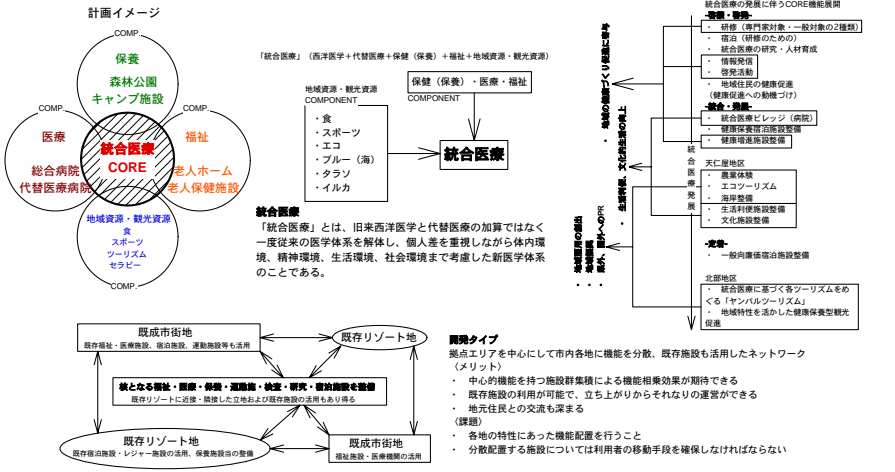
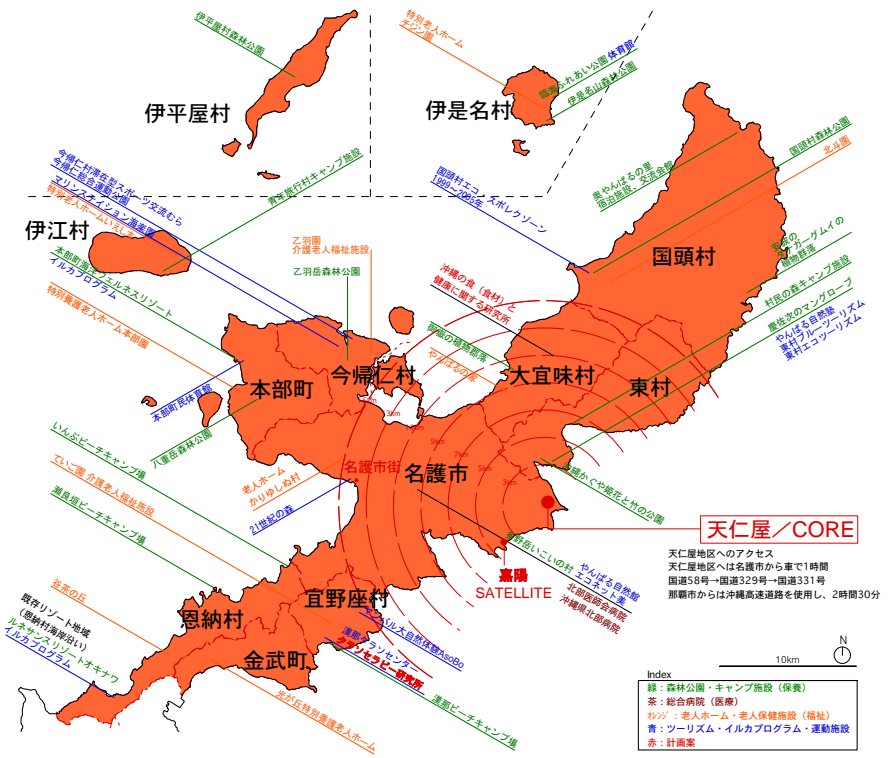
- ①保健・医療・福祉ネットワークに加え代替医療および、沖縄の豊かな地域資源、観光資源を医療分野に活用した医療体系となる「統合医療」を提案する。
  - ②医療過疎地域への地域医療を整備するために、地域医療促進を行う。
  - ③医師など医療関係従事者に地域医療への啓蒙活動を含め、専門家の地域医療への関心を促す。
  - ④長期滞在のための宿泊施設、自然環境を活用した体験型観光促進を行い、それらに統合医療研究に基づく健康保養機能を付加することで、健康・保養をテーマとした観光を促し、観光収入による地域振興を行う。
  - ⑤住民の参加を促し住民に開かれた施設づくりを行い、各市町村の拠点となる施設を個性的なものとする。
  - ⑥北部地区の既存リゾート地などの観光資源、地域資源を活用した計画にする。
  - ⑦各市町村の拠点となる施設をネットワークによってつなぎ、健康保養プログラムを作成し観光客、保養者の体験型観光に活用する。
  - ⑧健康・保養効果が見込めるプログラムを作成するために、各専門家（医師、介護士、セラピスト、調教師など）、行政関係者（保健課、福祉課）へ共通認識を促す。
  - ⑨地域住民の健康増進に寄与するために、住民に健康づくりの正しい知識を広める。
- 計画での位置づけ  
CORE：統合医療の構成要素（COMPONENT）をソフト的につなぎ、連携をとる。  
COMPONENT：統合医療を構成する各分野の専門施設、および携わる人材。  
SATELLITE：地域（集落）レベルでの統合医療実践地（保健・医療・福祉および地域資源の連携実践地）。

■ COREの役割

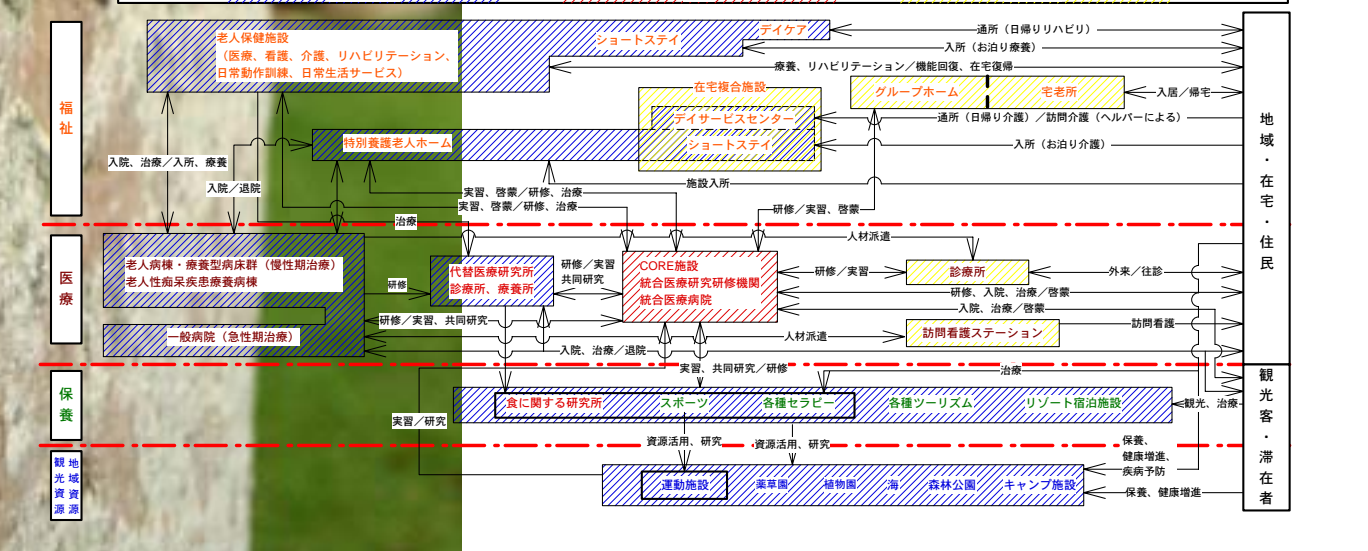
今日代替医療をはじめ各セラピーなどに注目が集まっているが、科学的・医学的根拠に基づき実践されているものは少ない。そのため、医療と他分野との連携が取れないのが現状である。また、医療分野においても、地域医療や訪問医療など地域包括医療の必要性が増しているが、人材不足などの問題がある。統合医療を構築するために、COREが担う役割として

- ・代替医療をはじめとする各セラピーの研究活動の促進
- ・各分野に携わる専門家または、行政関係者への啓蒙
- ・統合医療を実践するためのコンダクト

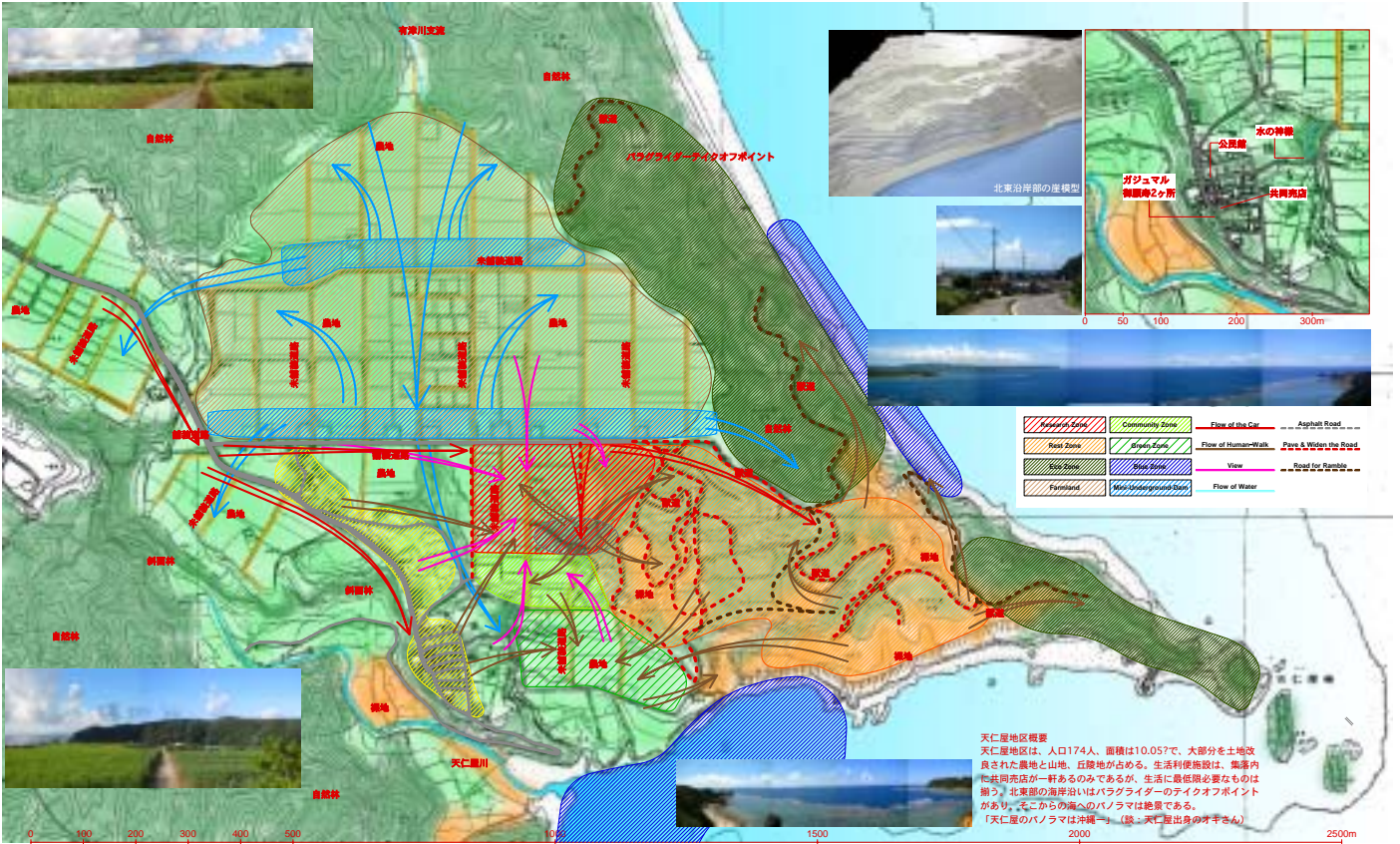
などが挙げられる



施設間ネットワーク  
統合医療を構築するためにCORE施設の役割は、  
①代替医療、各種セラピーなどの研究活動の促進  
②各分野に携わる専門家または行政関係者への啓蒙  
③統合医療を実践するための指揮  
が挙げられる。以上から沖縄県北部地区に人的ネットワークを中心とした各施設の連携を行う







**環境分析と考案・計画**  
**【地形と地質】**  
 ①農地、集落部は入り江に向かって傾斜し、集落部の最低標高は26m、農地の最高標高は90m以上ある。  
 ②集落内は比較的平地地帯にあるが、農地はほとんどは南側に傾斜する斜面である。  
 ③北東部沿岸部の崖面は海からの風を防ぐ役割を果たしているため、この地形を崩さない開発を行う。  
**【ヒューポイント】**  
 天仁屋地区は傾斜地のため、美しい景観を望める場所が地区内に多数ある。  
 ①展望ポイントを結ぶ散策路を計画する。  
 ②建物のデザインを景観に溶け込むようにする。

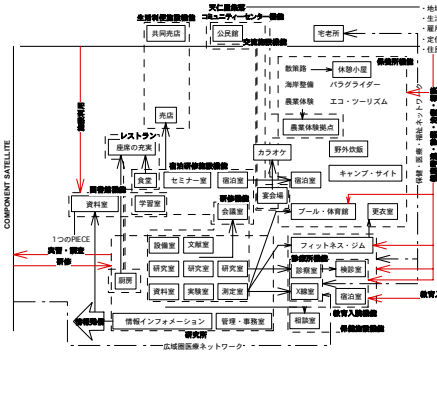
**【緑分帯】**  
 ①沿岸部の潮風は植物の成長に悪影響を与える。従って現在植生している木を伐採すると、植林を行っても木の生長は見込めない。  
 ②防風を要する沿岸部の林への開発は最小限に留める。  
 ③植林による防風は冬季の北風に効果的である。  
**【水質】**  
 ①北部は比較的水不足の心配が少ないが、本土に比べると降水量は少なく、農業用水の水不足は否めない。  
**【道路計画】**  
 ①土地改良に伴い集落へ向かう道路および農地内の東西道路は舗装拡幅されている。

**【集落】**  
 ①来訪者の増加を考慮すると、生活利便が不足していると考えられる。  
 ②住民の健康増進に寄与する施設計画が必要である。  
 ③住民の代謝を行うためにも天仁屋地区の定住人口の増加に結びつく計画が必要である。

**CORE計画 -ground plan- GROUND IDEA**  
 ・天仁屋地区の景観を崩さず、やんばるの自然を活用し、その中に溶け込むような段階的な開発を行う。  
 ・公園、散策路を中心とした人の流れをつくり、随所に人の溜まりとなる半屋外空間（日陰空間）を配置する。  
 ・中核、生活利便機能を備えた施設は、地区内の車動線、歩行者動線からの視線が集まりやすい集落北側の傾斜地中継に計画する。  
 ・計画地周辺からの建物、特に屋根の見え方に配慮し、建物の存在を強調し過ぎない。  
 ・東側の海岸沿いの崖面は防風の役割を果たすため、地形を崩さない。  
 ・地下ダムの水を農業用水の他に、公園内の人工地や水の神様の祈りの空間に利用し水の豊かな地区計画をする。  
 ・人工地は日陰空間と合わせて計画し、蒸発熱を利用した涼空間をつくり人の溜まりをつくる。

**ZONING [Research Zone]**  
 ・研究機能、研修機能を中核に施設を発展させる。  
 ・寄せ保層根をサトウキビ畑の中に分散配置する。  
 ・その過程で計画的に植栽を行い、建物の存在を強調しすぎないようにする。  
**[Rest Zone]**  
 ・保護、レジャー目的のための長期滞在ができる宿泊施設を森の中に分散配置する。  
 ・林の中に分散配置させる。  
 ・隣接ゾーンと歩行者動線が結び、相互施設の利用を可能にする。  
**[Eco Zone]**  
 ・やんばるの自然を活用したエコツーリズムを行う。  
**[Farmland]**  
 ・景観保存、農業生産の場から保存する農地。

**[Community Zone]**  
 ・徒歩で移動できる場所に軽運動ができる芝生の公園をあわせて計画する。  
 ・日陰空間の整備と水の蒸発熱を利用した涼しい空間を計画する。  
**[Green Zone]**  
 ・グリーンツーリズムの場として、体験農地および農業体験施設機能を計画する。  
 ・[Rest Zone]、[Community Zone]からの歩行者動線に計画する。  
 ・[Bleu Zone]の潮干干りとともに、やんばるの生活体験の場とする。  
**[Bleu Zone]**  
 ・北東ゾーンは海水浴を目的としたビーチを整備し、入り江（雨）ゾーンは潮干干りなどを体験できるブルーツーリズムを企画する。  
**[Mini-Underground-Dam]**（地下ダム）  
 ・主に農業用水確保のために、有津川からの地下浸水および雨水を地下に貯める。  
 ・貯水は農業用水の他に、観覧池などに流す。



**コンクリート、石積み**  
 壁面が高ければ高いほどSUB PIECEはPIECE機能から分離し、独立した機能となる。逆に、低い壁面によってPIECE、SUB PIECEの各機能への接続を図ることができる。

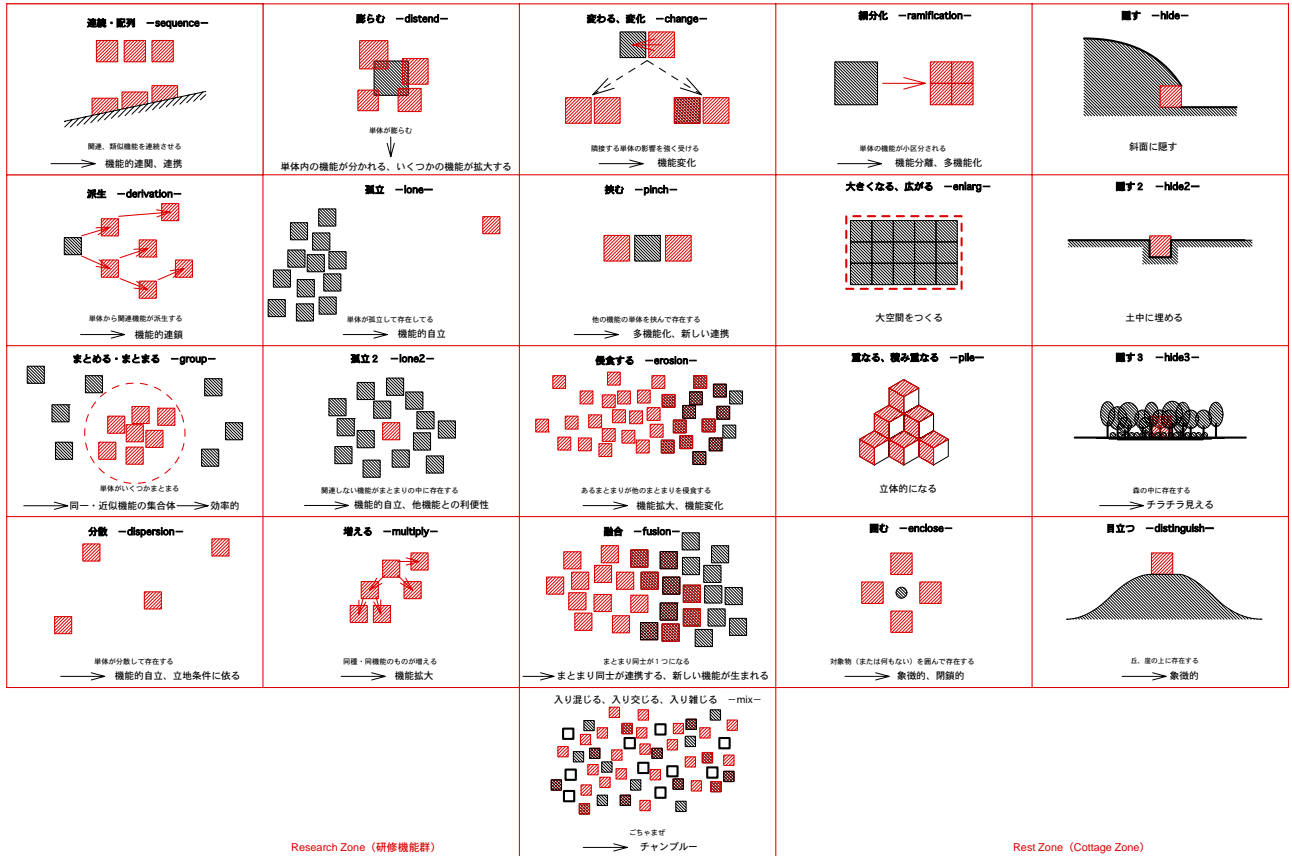
**竹藪、格子、スクリーンブロック**  
 PIECE空間をSUB PIECEと柔らかく演出しPIECE機能を緩衝する。SUB PIECEからはPIECE空間へのあいまを感じることができる。また、通風を確保することができる。沖繩の強い日差しを和らげることができる。

**ガラス、開口なし**  
 SUB PIECEはPIECE機能同士を結合する。PIECE単体の場合は、PIECE機能を外部に延長する役割を果たす。



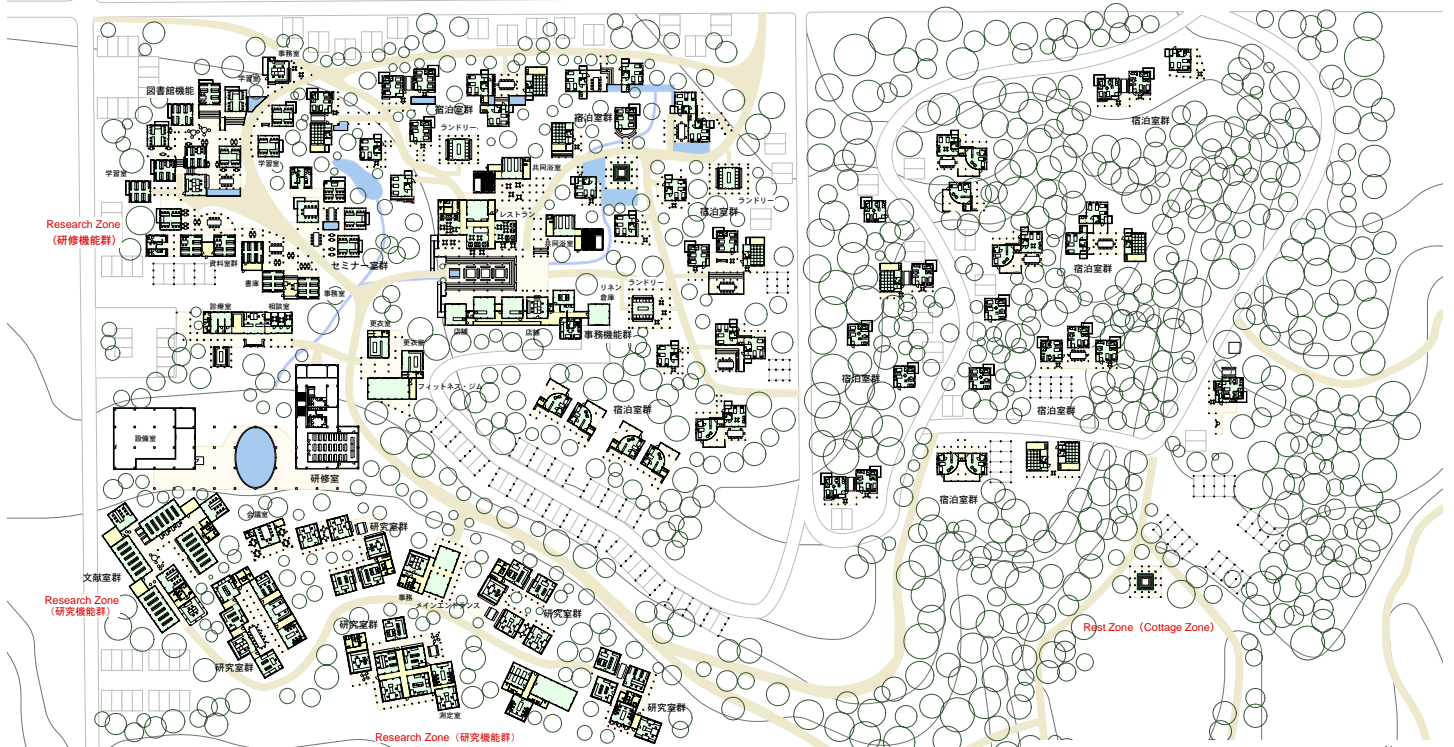
PIECEの形態と場所 -PIECE FOAM & LOCATION-

1つのPIECEに1つの機能を与え、PIECE同士が連携をすることによって施設が多機能化していく



Research Zone (研修機能群)

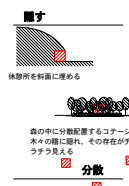
Rest Zone (Cottage Zone)



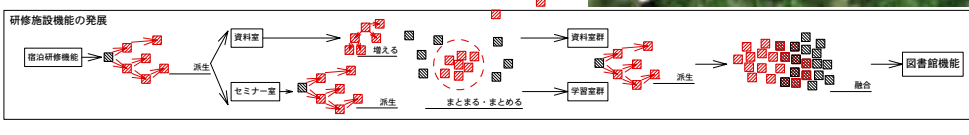
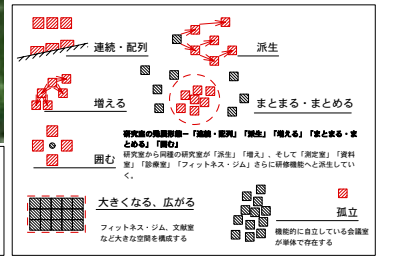
**SITE PLAN**  
 サトウキビ畑の中に計画されるResearchZone、森の中に分散するコートジ (RestZone)。小規模なPIECEの機能、多機能化するための連携によって様々な密度によってPIECEが配置される。

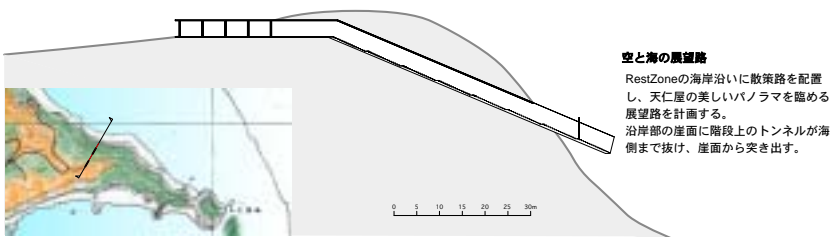
**Index**

- PIECE空間 車道
- SUB PIECE空間 歩道、動線路
- アマハン空間



Research Zone, Rest Zone (Cottage Zone) 配置、平面図





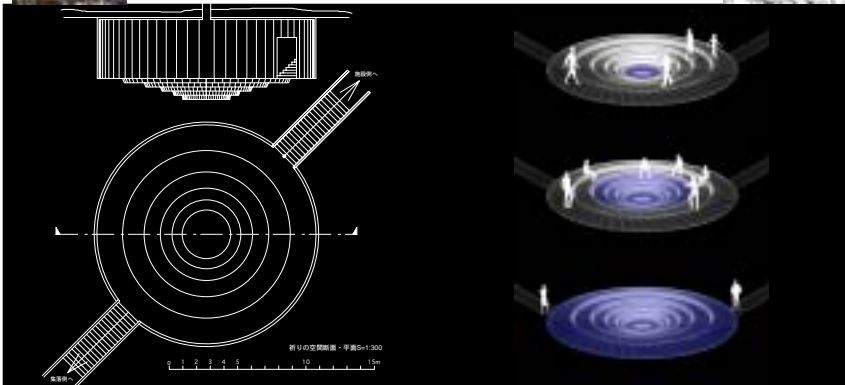
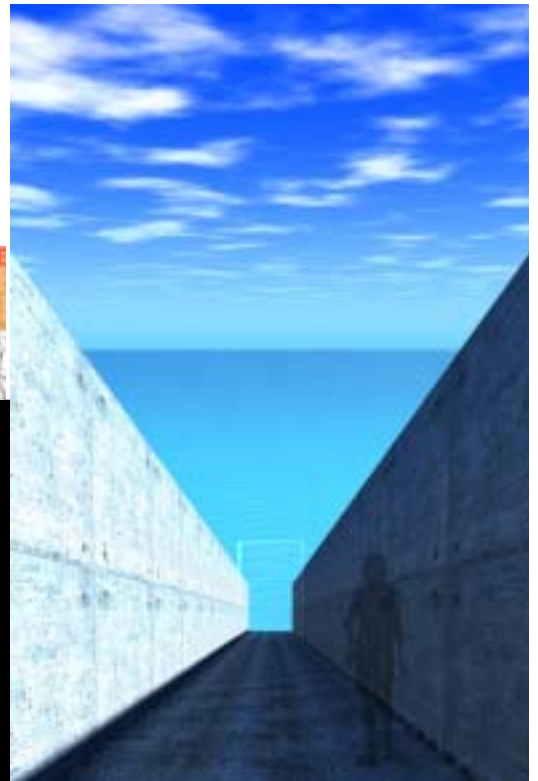
**空と海の風望路**

RestZoneの海岸沿いに散策路を配置し、天に屋の美しいパノラマを臨める展望路を計画する。沿岸部の崖面に階段上のトンネルが海側まで抜け、崖面から突き出す。

**水・祈りの空間**

天に屋集落の北側には有津川の支流が湧いている。かつての天に屋地区の住民がこの湧き水を見つけ、この場に御願所と呼ばれる拝所を設け、農業を中心とした生活をまえる水を祭った。現在もこの拝所残っている。水も湧き続け、周辺を木々に囲まれている。地元の住民はこの拝所を「水の神様」と呼び、時折夏季の猛暑避けるためにこの場で泳いでいるという。昔から水不足の問題を抱える沖縄では、水が湧く場所は神聖な場所とされ、現在も集落地域ではその思想は継承されている。地元住民と来訪者の文化交流の場として、この「水の神様」の地下に祈りの空間を計画する。祈りの空間は地下の貯水池として活用し、水は地下ダムから供給される。貯水量は常に一定ではなく、地下ダムに溜められている水量によって多いときもあれば少ない時もある。アプローチは集落側と施設側の方角があり、貯水量が多い時は相互の行き来すらできなくなる。自然条件や気候条件によって変化する祈りの空間は、直接肌で感じることでない沖縄の自然を感じる事ができる。

水の神様



祈りの空間断面・手高0+1.300



レストランバス



文献室群バス



文献室群バス

**やんばる日和**

